

# 相談室だより

2016年1月

吉野地区地域包括支援センター 緒方弘征

吉野地区地域包括支援センターのソーシャルワーカー緒方です。2012年10月から吉野地区地域包括支援センターで勤務しています。吉野地区地域包括支援センターも早いもので4年目を迎えました。

2016年は、「正念場」の年と感じています。地域にとっても、包括支援センターにとっても、また私自身にとっても「正念場」です。今回は、この「正念場」について書いてみようと思います。

## 地域にとっての正念場

2011年3月の東日本大震災・福島第一原発事故では、責任の所在とその後の対応が曖昧になっています。そこには『想定外』という言葉が上手く使われました。国による開き直りです。現在の地域も同じように、国による開き直りに直面しているように感じます。

- 高齢者が増えるので、国民負担が増えても仕方ない 消費税が10パーセントになっても仕方ない
- 介護保険財政が厳しいので、介護保険の範囲を縮小しても仕方ない

国による開き直りが意味するものは、これらは、『想定内』のはずなのに、「国は、もう、どうしようも出来ない」ということではないかと思えます。

では、誰がするか？誰が決めるか？これが、より顕著になってきているように感じます。誰？それは、「地域であり市民」です。自分たちのことは、自分たちで決める時代です。実際に、こんなことがありました。

- バス路線が縮小して、住民が困っている。ならば自分たちでバスを走らせよう。倉永循環バスとして実現しています(倉永校区の取組)。
- 子どもたちの安全は地域で守る。毎日6~7名の地域住民が小学生・保育園児を見守ること12年(吉野校区の取組)。
- 過疎化に負けない！オリーブの木を植えて地域おこし(上内校区の取組)
- 2025年問題を勝手に俺たちの問題に押し付けるな！地域のリーダー研修での一コマ。2025年に75歳を迎える現在の地域リーダー達が、自分たちが自分たちの2025年をつくると意思表明。

## 地域包括支援センターにとっての正念場

地域包括支援センターは、高齢者の自立生活を総合的に支える施設として2006年度から全国の市町村に設置されました。ここ吉野包括支援センターは、2012年10月に開設しています。高齢者の「自立」とは何か、「自立」と「独立」の違いは？「自立」と「相互支援」の関係はどんなものか？「自立から孤立にならない支援をするためには？」など常に考えています。住民の動きだしとその歩調を意識しながらの活動です。実際の活動として、

- もの忘れカフェの立ち上げ(2ヶ所)・・・当事者・家族・地域住民の交流と認知症に対する正しい知識の啓発

- 地域の民生委員と小学校との協同事業・・・小学生へ地域や高齢者に対する授業や、小学生と一緒に作った門松を地域の介護事業所に贈呈など
- 集合住宅での何でも相談会の実施・・・毎月、集会場に出向いての相談活動
- 地域の民生委員さん達と気になる住民に対する定期会議・・・毎月、地域に出向き、情報共有・気になる方への訪問

これらの活動を通して、見えたことは、「支援する側の一方通行ではなく 支援される側が支援するほうを支える」ことが確実にあるということです。支援される方々から私たちは、多くのことを学び、そして支えてもらっています。

つい最近も、半年前に僕の授業を受けた小学生と偶然会い、その小学生が「緒方先生！」と声を掛けてくれました。嬉しい気持ちはなりましたが、それは一瞬でした。僕はその小学生の名前はおろか顔も忘れていたので、大変恥ずかしく申し訳ない気持ちになりました。小学生から、「名前と顔を覚えることは、人間関係にとって非常に大切なこと」と教わりました。

## 僕にとっての正念場

時間軸を意識する！これまでの包括の業務では、即時性(すぐやる)と現場主義(現場に行く)を大切にしてきました。今年は、時間軸を意識し、目の前に起きていることと時間軸(過去・現在・未来)の関係性を意識していきます。そうしないと僕が行うソーシャルワーカーとしての仕事が、未来にとって恥ずかしいものになってしまう恐れがあるからです。制度の為のソーシャルワーカーか、人の為のソーシャルワーカーか、正念場です。

例えば2016年(私43歳)：介護保険の利用者負担の拡大はどうなるか？市町村の地域支援事業はどうなるか？介護の人材不足はどうなるか？

例えば2018年(私45歳)：医療と介護の同時改定はどうなるか？介護療養病床の廃止はどうなるか？

例えば2025年(私52歳)：団塊の世代が75歳以上に達する事により、介護・医療費等社会保障はどうなるか？

例えば2035年(私62歳)：団塊世代が死亡平均年齢に達し、最多死となり、世帯主が75歳以上世帯で単独世帯が約4割となる社会はどうなるか？

「どうなるか？」を意識しつつ、「どうするか？」を実践していきます！

